

社会人対象講座 キャリアアッププログラム

Basic subject Career Up Program

広島経済大学キャリアアップ・プログラム・メールマガジン 第60号(2012.2.2 発行)

なお、本メールが不要な方は career-up@hue.ac.jp までご連絡ください。

【目次】

- ・巻頭言.....広島経済大学 経済学部
准教授 宮畑 加奈子
- ・エッセーのコーナー『ガールズトーク』.....F.Y.様
- ・CP3 学期 講義の様子
- ・平成 23 年度 3 学期 カルチャー講座開講しました

■巻頭言

広島経済大学 経済学部
准教授 宮畑 加奈子
CP 講師
3 学期『ビジネス法の基礎』

元宵節、天燈(ティエンダン)そして湯圓(タンユエン)

毎年この時期になるとかつて台湾で食べた湯圓(タンユエン)が無性に恋しくなる。湯圓は、小豆や胡麻やピーナッツのあんをもち米にくるんで茹でたもので、ランタン祭りで知られる元宵節の風物詩でもある。元宵節とは、農曆(旧暦)1月15日を指し、台湾ではこの日をもって「過年」の終わり、つまり松の内の最終日とする(日本の小正月に相当する)。台湾の新年は農曆を基準としており、新暦上の日付は毎年異なる。ちなみに今年の農曆の元旦は1月23日であったので、元宵節は2月6日となる。元宵節に前後して各地でさまざまな行事が行われるが、中でも有名なのは、新北市平溪の天燈(ティエンダン)フェスティバルと台南市鹽水区の爆竹祭りである。前者は、願い事を書いた紙製の気球を空に放つもので、凍てつく夜空に一斉に舞い上がった無数の天燈は、えもいわれぬ幻想的な空間を演出する。

元宵節とは少し季節がずれるが、天燈といえば「シーディン(石碇)の夏」(2001年、鄭有傑監督)という短編映画のラストシーンを思い出す。故郷で過ごす男子大学生のひと夏を甘酸っぱく描いたこの映画は、2001年の台湾金馬奨最優秀賞を受賞した話題作でもあった。試写会の会場で、当時確かまだ台湾大学

経済学部在学中であった鄭有傑監督に向かって、友人の一人が唐突に「同じ漢民族による国内の植民主義についてどう思うか？」という辛辣な質問を浴びせた。かなりの外れにも思えるその発言に、私はなぜか一人頷いていた。台湾語しか話せない祖母と国語(中国普通語)しか話せない孫(主人公)との会話がすれ違う(というか成り立たない)シーンが流れた際に、観客席から少なからぬ失笑が漏れ聞こえたことに苛立っての質問だった。台湾の漢民族の間では、元来、中国大陸南部の福建省・広東省から持ち込まれた言語が広く使用されていた。その後、1895年から1945年にかけて台湾を統治した日本により日本語教育が施され、蒋介石率いる国民党の台湾遷移後は、中国大陸から持ち込まれた国語(中国普通語)が使用された。政権が入れ替わるたびに(しかも普通の政権交代ではない)公用語が変わり、その度毎に言語に習熟する次世代の登場をまって、自らの主張を繰り広げねばならなかった経験は、歴史とともに台湾の人々の記憶の古層に刻み込まれたことだろう。鄭有傑監督の一連の作品には、意識するとせざるとにかかわらず、台湾に住む外国人や華僑、台湾人とフランス人の両親をもつ女子高生など、「アイデンティティー」に関する要素が少なからず見え隠れする。文化を内包した言語の問題は、この「アイデンティティー」の問題とも無縁ではない。

冒頭の「湯圓」(タンユエン)の起源については諸説あるが、一家団欒を意味する「団圓」(トワンユエン)と発音が似ていることも、台湾で縁起物と目される理由の一つである。元宵節はまた家族の絆を再認識する日でもあるのだ。一方で、陰陽五行思想における相克の理によれば、湯圓の白は、五行の金気に属するものである。金気は春(五行の木気に属する)を剋するもの(金剋木)とされるため、迎春行事では、金気破碎の行為により、間接的に春を助ける意味合いのイベントが行われることも多いという(陰陽五行思想と民間行事の関係については吉野裕子『陰陽五行と日本の民俗』等に興味深い考察がある。)。白い湯圓を食する習慣は、迎春行事の締めとしても、ふさわしいものなのかもしれない。

折しも、台湾では1月中旬の総統選挙で国民党の馬英九総統が辛勝し、政治的にも新たな局面を迎えている。本籍地での投票を原則とする台湾の選挙では、国をあげての民族大移動を伴うのが普通だが、8割ともいわれる投票率には、国の来し方行く末を占う選挙への関心の高さが如実に示されていた。「台湾人か中国人か」という、選挙の度に繰り返されてきた使い古されたフレーズは、世代交代が進むにつれ、すでに存在意義を失ったかにもみえる。しかし、この言葉に象徴される「アイデンティティー」の問題は、形を変えて、今なお再演され続けているように思えてしかたがない。個人としてのアイデンティティーが、究極的には自らの帰属先や何かとのつながりを求めるものであるとすれば、台湾の人々は、選挙後の湯圓を、どのようなつながりを求めて、どのような思いで味わうのか「耐人尋味」(興味深々)である。

■エッセーのコーナー

ガールズトーク

F.Y.様

ガールズトークの内容ってご存知ですか？

配信されるメールの読者の皆様の男女比と年齢層が分かりませんが、男性からするとガールズトークとは摩訶不思議で少し恐ろしくも感じるものなのではないでしょうか。私が参加するリアル女子会のトークテーマは…もちろん恋のお話？闘っている仕事のお話？いろいろ思うところがある家庭のお話？これらも重要議案ですが、目下熱くなるのは健康トーク。学生時代のように一日寝れば元気だった頃とは違い、身体の疲れが取れなくなりました。仕事もプライベートも全ては健康に通ず。毎日冷えと闘いながら、黒酢、しょうが、生野菜ジュース、岩盤浴、ヨガ、ピラティスなど自分たちが試して効果があったものや利用して良かった施設などを、厳しく辛辣な言葉で信用できる情報として共有します。男性より女性のほうが健康を気にしやすい方が多いこともあるのかもしれませんが。ネットでは口コミサイトなどありますが、近場のガー

ルズトークに勝る対費用効果と信用性の高い口コミはないと思います。

口コミで広がるのは良い情報ばかりではありません。お客様に対する態度と業者さんに対する態度が全く違う企業の方をよくお見かけします。でも回り回って結局はその業者さん、もしくはその関係者の方もお客様になる場合もあるのに…。あそこの会社の…先輩から聞いた話だけど…まことしやかに語られるこういった話は、たまに怖いくらいの力を持って広がっていきます。百聞は一見にしかず、百見は一考にしかず、百考は一行にしかずとは言いますが、口コミの威力もあなどることはできないのではないかと思う今日この頃です。

素敵なガールズ達に教えてもらった様々な方法を実践し、体温も運氣もあげてまいりたいと思います。風邪やインフルエンザの流行で、周りの人達がバタバタと倒れていく毎日です。皆様ご自愛ください。

【エッセーご寄稿のお願い】

どなたでも結構ですのでエッセーを募集しています。

匿名でも、ペンネームでも構いませんので、ご寄稿頂ける方は career-up@hue.ac.jp または 082-871-9345 までご連絡ください。掲載の日程をご連絡いたします。

■CP 3 学期が開講しました

前回に続きまして、今回も受講者の 3 学期の学びの心意気をご紹介します。

今回は『コーポレートファイナンスの実際』と『現代リスク社会の企業戦略と広報』、『ビジネス中国語基礎』、『日本の税財政と社会保障』の 4 科目をご紹介します。

【木曜日】 講義日 1 月 19 日・26 日、2 月 2 日・9 日・16 日・23 日

《コーポレートファイナンスの実際》 講師: 渡辺 昌彦 経済学科 教授
より合理的なビジネス判断を下すあなたのために



【木曜日】 講義日 1 月 19 日・26 日、2 月 2 日・9 日・16 日・23 日

《現代リスク社会の企業戦略と広報》 講師: 松井 一洋 メディアビジネス学科 教授
企業の社会的責任の重さを実感しはじめたあなたのために



【金曜日】 講義日 1月20日・27日、2月3日・10日・17日・24日

《ビジネス中国語基礎》 講師: 広田 堅志 准教授

中国のビジネスに挑戦したいあなたのために



【金曜日】 講義日 1月20日・27日、2月3日・10日・17日・24日

《日本の税財政と社会保障》 講師: 増原 義剛 経済学科 教授

日本の財政や社会保障は持続可能か、と将来に不安を持つあなたのために



《お詫びと訂正》

前回の CP 通信 59 号でビジネス法の基礎講義の講義風景を紹介する副題に誤りがございましたので、

お詫び申し上げますと共に、訂正いたします。

《ビジネス法の基礎》—知的財産権を主たる事例として— 講師:宮畑 加奈子 准教授
(誤)よりベーシックな法的思考力法を身につけたいあなたのために
(正)よりベーシックな法的思考方法を身につけたいあなたのために

■平成 23 年度 3 学期 カルチャー講座開講しました

この講座は、本学の教養教育を担当する教員が中心となって、地域社会の方々に歴史・文化・社会・スポーツなどの分野について、その研究成果、経験でえた知見を公開する目的で行われています。

記念すべきオープニング講座は、『西洋古版本について語り合おう—広島経済大学図書館「知の系譜」文庫—』で、石田理事長が講師を務めました。第 1 回目は、本学が文庫の収集を始めた経緯と収集方針について講義し、購入時の裏話など盛り沢山の内容に受講生の皆さんは熱心に聞きいておられました。

この講座は、2 月 29 日まで、毎週水曜日に立町キャンパス(最終回のみ本学図書館)で計 6 回開催されます。

講座名:『西洋古版本について語り合おう—広島経済大学図書館「知の系譜」文庫—』

講師:石田 恒夫(学校法人石田学園 理事長)、西川 英治(本学図書館部長)

受講者数:19 名



平成 24 年度カルチャー講座のホームページは現在更新中です。

講座に関するお問い合わせは下記にご連絡ください。

広島経済大学 教育・学習支援センター カルチャー講座係

Tel(082)871-9345 にお電話ください。

■キャリアアップ・プログラム 公式ホームページ

平成 24 年度のキャリアアップ・プログラムは現在企画中です。ホームページの更新とチラシの完成は 3 月上旬となる予定です。

チラシご希望の方は、郵便番号、住所(マンションの場合部屋番号も)、氏名を career-up@hue.ac.jp までお送りください。チラシが出来上がり次第、送付させていただきます。

キャリアアップ・プログラムに関する、ご質問やお問い合わせは下記の連絡先へ、ご遠慮なくご連絡ください。

731-0192

広島市安佐南区祇園五丁目 37-1

広島経済大学

教育・学習支援センター 教育支援課

お問い合わせは電話番号(082)871-9345 または E-mail career-up@hue.ac.jp どうぞ。

HUE 広島経済大学
CAREER UP PROGRAM